

会社情報 (2021年3月31日現在)

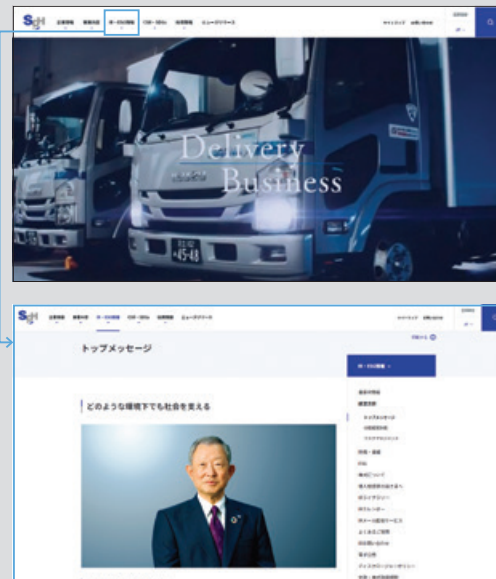
商号	SGホールディングス株式会社 (SG Holdings Co., Ltd.)
設立年月	2006年3月
資本金	11,882百万円
本社所在地	京都市南区上鳥羽角田町68番地
グループ人員	従業員数 97,774名 うち、パートナー社員等 (期中平均) 45,753名
事業内容	グループ経営戦略策定・管理並びに それらに附帯する業務
発行可能株式総数	1,800,000,000株
発行済株式の総数	640,394,400株(自己株式5,169,214株含む)
株主数	24,817名

株主メモ

証券コード	9143
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後から3ヵ月以内
株主確定基準日	毎年3月31日
剰余金の配当の基準日	期末配当3月31日、中間配当9月30日
株式の売買単位	100株
公告掲載方法	電子公告とします。ただし、やむを得ない事由により、電子公告によりできない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。電子公告は当社のホームページに記載しており、そのURLは次のとおりです。 https://www.sg-hldgs.co.jp/ir/notice/
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関 連絡先・郵便物送付先	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話番号 0120-094-777(フリーダイヤル)
株式分割の実施	2020年10月31日(土曜日)を基準日(同日は株主名簿管理人の休業日につき、実質的には2020年10月30日(金曜日))、同年11月1日を効力発生日として、当社普通株式1株につき、2株の割合をもって分割いたしました。

Webサイトでも情報を開示しています

▶ <https://www.sg-hldgs.co.jp>



当社のWebサイトでは、グループ企業の活動全般にわたる最新の情報をご提供しています。また、「IR・ESG情報」では、決算短信や決算説明会資料の掲載をはじめ、経営方針や経営戦略、各種お知らせなどを幅広く発信しています。財務情報や事業内容などについての詳細はWebサイトをご参照ください。

▶ <https://www.sg-hldgs.co.jp/ir/>

※株式や配当についての情報は、「IR・ESG情報」の「株式について」からご覧いただけます。

SGホールディングス株式会社

SGH



SGホールディングス株式会社 株主通信

第15期 2020年4月1日～2021年3月31日

本号のキーワード
「Xフロンティア」全面稼働開始

▶ 詳細はP11-12をご覧ください。

SGホールディングス株式会社

証券コード:9143

UD
FONT



この印刷物のFSC®ラベルは、世界の森林資源の責任ある利用を保証します。

数字で見るSGホールディングスの強み (2021年3月31日現在)

財務指標

営業利益率

7.8%

前期比1.4ポイント↑

EBITDA

1,281億円

前期比292億円↑

ROE

19.0%

前期比6.2ポイント↑

1株当たり配当金※

35円

前期比13円↑
特別配当金5円含みます。

配当性向

29.9%

前期比0.4ポイント↑

EPS※

117.03円

前期比42.58円↑

※2020年11月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を実施。1株当たり配当金及びEPSは、2020年3月期期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の金額を記載。

非財務指標

グローバルネットワーク

28カ国119社

世界各国で事業を展開

外部ネットワーク

幹線輸送の協力会社数 約380社
宅配サポーター数 約3,600社
TMS協力会社 約3,000社
専門業者とのアライアンスで
課題解決

拠点数

1,436拠点

全国に広がる
ネットワーク

従業員数

97,774名

幅広い事業領域に対応

女性従業員比率

33.8%

女性:33,048名 男性:64,726名

優秀な人材の正社員登用や
新卒・中途採用などを促進

女性管理職比率

11.2%

女性の管理職への
積極的な登用を推進

車両台数

27,846台

強固な輸送力

取扱個数(国内)

1,403百万個

国内宅配便取扱シェア第2位

保有する森の面積

856.89ha

東京ドーム約182個分を保有



急激に変化する社会環境に柔軟に対応し、社会から必要とされる総合物流企業として持続的な成長を目指します。

代表取締役会長 兼 社長

栗和田 栄一

ニューノーマル時代を拓く

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）の拡大が招いた未曾有の事態は、社会、経済、そして私たちの生活に、大きな変化をもたらしています。人々の購買行動も例外ではなく、店舗で直接商品を手に取り購入する形から、インターネット等を介した通信販売へと大きく転換し始めております。

このような変化により物流業界では、個人宅への配達を中心に、宅配便の取扱個数が増加いたしました。また、非対面、非接触での荷物の受け取りを希望する声を多数いただく中、配達場所を指定できたり、在宅していながら非対面で荷物を受け取れたり、配達方法もお客さまのニーズにお応えすべくさまざまな工夫をこらしてまいりました。コロナ禍により人々の行動が制限される中で、物流はより高度で複雑なオペレーションを求められており、ビジネス

チャンスが拡大していると認識しております。

SGホールディングスグループでは、主力商品である飛脚宅配便の取扱個数が大幅に増加する中、次世代型大規模物流センター「Xフロンティア」の中継センターが稼働を開始いたしました。これにより、当初計画していた年間取扱個数から9,000万個程多い荷物を、安定した品質でお届けすることができました。また、社会インフラを支えるエッセンシャルワーカーとしての使命を全うするために、検温や消毒など感染症の予防を徹底し、持続可能な社会の構築に貢献してまいりました。

2021年3月期の業績について

2021年3月期は、主力のデリバリー事業において、店舗の販売自粛等の影響によりBtoB荷物が減少しましたが、eコマースの拡大によるBtoC荷物の増加が上回り、取扱個数は増加（前期比6.7%増）しました。増加する荷物への対応として、ドライバーの

商業エリアから住宅エリアへの配置転換、幹線輸送の効率化などの輸送インフラ整備、及びラストワンマイルの強化を行ってまいりました。また、デジタルライゼーションによる生産性の向上や働き方改革に取り組み、経営基盤の強化を推し進めました。

ロジスティクス事業におきましては、感染症が世界的に拡大する中、エクスポランカ社*がアジア発米国着の航空機をチャーターして個人用防護具の緊急輸送を行うなど機敏な対応により新規ビジネスの受託につなげました。

これらの取り組みにより、2021年3月期の業績は、連結営業収益が1兆3,120億円（前期比11.8%増）、連結営業利益が1,017億円（前期比34.8%増）となりました。

※エクスポランカ社：2014年5月に資本提携により当社グループに加わったスリランカ最大手のフレイトフォワーダー。世界25か国・地域の約70か所に拠点を有し、アパレルの航空輸送をコア領域に西はアフリカ、東は米国まで事業を展開しており、欧州においても強力な代理店網を保有。

2022年3月期の見通しについて

2022年3月期の見通しにつきましては、わが国経済が感染症拡大前の水準に回帰することが見込まれる一方で、変異ウイルスによる感染拡大が危惧されており、先行きは依然として不透明な状態が続いております。このような状況により業績予想を立てるうえで、2つの前提条件を置かせていただきました。ひとつめは、デリバリー事業の取扱個数をほぼ前年並み、平均単価もほぼ前年並みの前期から+3円といたしました。ふたつめは、ロジスティクス事業の国際フレイトフォワーディングにおいて、コ

ンテナ不足に伴う海上運賃の高騰、及び海上輸送から航空輸送へのシフトに伴う航空運賃の上昇は、上期中は継続する、と想定いたしました。

以上の前提条件に基づき2022年3月期通期の業績予想は、連結営業収益1兆3,250億円（前期比1.0%増）、連結営業利益1,070億円（前期比5.2%増）を見込んでいます。

配当について

2021年3月期の期末配当は、好調な業績を受け1株当たり17円とさせていただきます。これにより、年間配当は35円*となりました。

2022年3月期の配当予想につきましては、業績予想に対して配当性向の目標30%も踏まえ、1円増配の36円を予定しております。

今後の配当政策は、引き続き配当性向30%を念頭に、財務バランスや将来の投資計画等を総合的に勘案しながら検討してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2021年3月期配当及び2022年3月期配当予想

決算期	中間	期末	合計
2021年3月期	18円	17円	35円
2022年3月期	18円	18円	36円

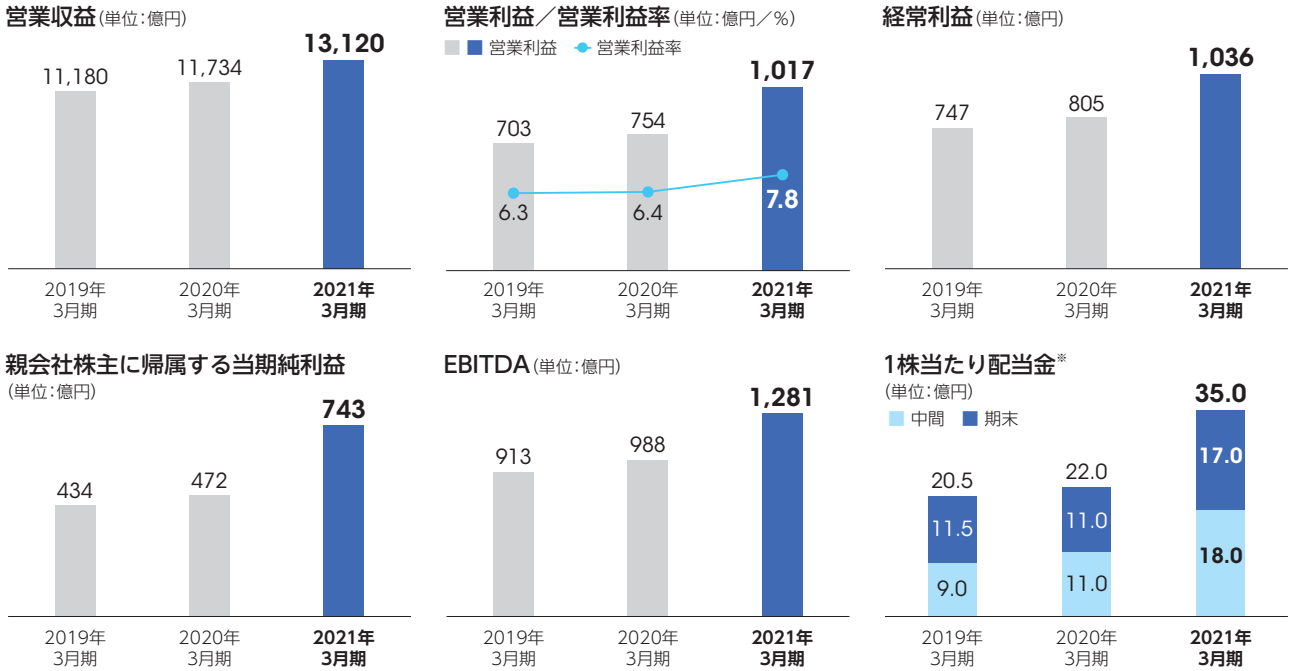
※2020年11月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を実施。2021年3月期の1株当たり配当金は、期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の金額を記載。

連結業績ハイライト

決算の
ポイント

- ☑感染症が拡大する中、取扱個数が大幅に増加
 - ・BtoBは回復傾向にあるものの減少、BtoCはeコマース市場の拡大を受け増加
 - ・BtoCの増加により相対的に小型の荷物の割合が増え、平均単価は前期比微増
- ☑Xフロンティアの中継センターが本格稼働したことで、品質とキャパシティが向上
- ☑ロジスティクス事業は、海外での個人用防護具の緊急輸送(上期)と、コンテナ需給ひっ迫の中、海上及び航空スペースを安定して確保(下期)したことで計画を大きく上回った

営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
13,120億円 (前期比11.8%増)	1,017億円 (前期比34.8%増)	1,036億円 (前期比28.7%増)	743億円 (前期比57.2%増)



※1 2021年3月期中間配当以前の配当金については、すべて便宜的に2020年11月1日付株式分割後の数字に直して表示しております。
※2 2021年3月期中間配当は、特別配当5円を含みます。

2022年3月期の見通し

見通しのポイント

- デリバリー事業は、コロナ禍に端を発したニューノーマルが今後も継続し、eコマース市場は拡大すると想定
- 不透明な事業環境を踏まえ、取扱個数は前期と同程度と前提条件を設定
- 平均単価は、適正運賃収受により+3円を見込む
- ロジスティクス事業は、国際フレイトフォワーディングにおいて、コンテナ不足に伴う海上運賃の高騰、及び海上輸送から航空輸送へのシフトに伴う航空運賃の上昇が上期中は継続すると想定

2022年3月期 連結業績予想

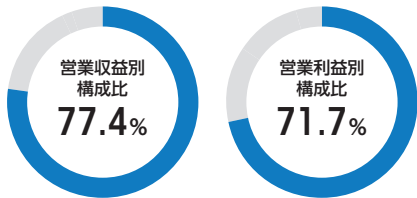
営業収益	営業利益	営業利益率	経常利益
13,250億円 (前期比1.0%増)	1,070億円 (前期比5.2%増)	8.1% (前期比0.3ポイント増)	1,085億円 (前期比4.7%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	EBITDA	1株当たり配当金*	
740億円 (前期比0.5%減)	1,370億円 (前期比6.9%増)	36円 (前期比1円増)	
主な商品・サービスの見通し			
平均単価	取扱個数	TMS	
647円 (前期比+3円)	1,403百万個 (前期比±0百万個)	1,020億円 (前期比9.5%増)	

※ 2020年11月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を実施。1株当たり配当金及び前期比は、2020年3月期期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の金額と差額を記載。

セグメント別概況

※2021年3月期より「その他の事業」の一部を「デリバリー事業」に変更したため、2020年3月期の数値を変更後の数値に組み替えて比較。
※セグメント間の営業利益の調整額は19億円です。なお、各事業の構成比は調整前の営業利益で算出しています。

デリバリー事業

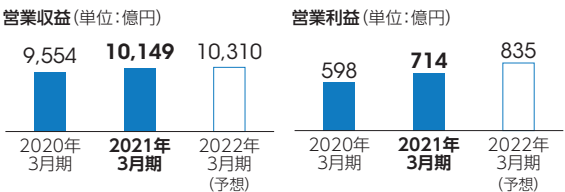


強み

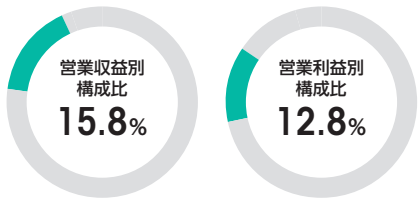
SGホールディングスグループの中核事業である当事業は、単なる輸送サービスにとどまらず、グループ各社との連携により、国内外問わず物流面からお客さまの課題を解決するソリューションをワンストップで提供しています。佐川急便の飛脚宅配便を中心に、大型家具や家電などの組み立て、設置など、輸送に関わるさまざまなサービスを展開しています。

2021年3月期の概況

感染症の影響が継続する中、外出自粛に端を発した巣もり消費、テレワークの推進など企業による働き方の変化及び消費者のライフスタイルの変化によりeコマース市場が急速に拡大し、宅配便の取扱個数は増加しました。平均単価につきましては、適正運賃収受の取り組みは継続しているものの、相対的にサイズの小さいBtoCの荷物が増加したことで、微増にとどまりました。また、「Xフロンティア」に代表される、輸送ネットワーク全般の整備とデジタルイゼーション等による生産性向上の取り組みにより、取扱個数の増加に対し安定した品質でサービスを提供しました。この結果、増収増益となりました。



ロジスティクス事業

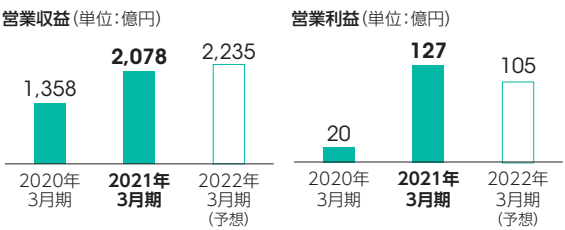


強み

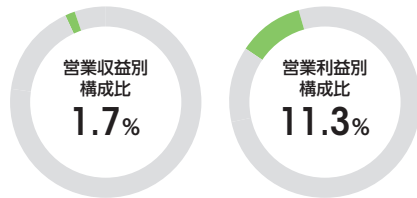
当事業は、国内外の倉庫での保管、流通加工、通関、フォワーディング及び、利用運送といった包括的な物流ソリューションを提供しています。海外ネットワークはこれまで日本を軸とした輸出入を中心に発展してきましたが、エクスポランカ社を傘下に加えた2014年を契機に、日本以外のアジアから欧米などグローバルネットワークが広がっています。

2021年3月期の概況

上期に海外における個人用防護具の緊急国際輸送を受託しました。下期以降、既存顧客の物量回復に加え、コンテナ需給がひっ迫する中、航空及び海上コンテナのスペースを確保できたことにより、フレイトフォワーディングの収益が増加しました。この結果、増収増益となりました。



不動産事業

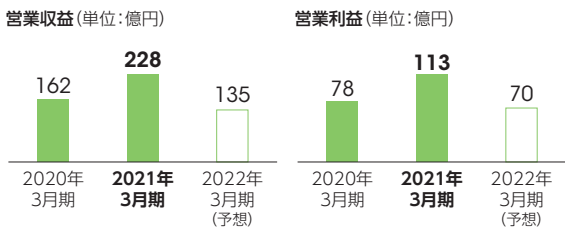


強み

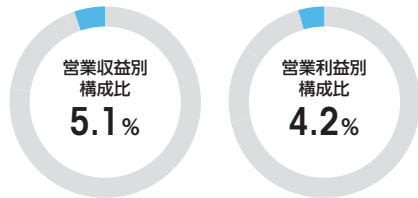
当事業は、新規物流施設の開発を通じ、グループの競争力向上に寄与しています。また、老朽化した既存施設及び物流効率の低い施設の大規模修繕やバリューアップにより、全国の輸送インフラの最適化を実現しています。

2021年3月期の概況

2020年1月末に竣工した次世代型大規模物流センター「Xフロンティア」が順調に稼働し、2021年3月にすべてのフロアが本格稼働しました。また、計画的に保有不動産を売却したことにより、増収増益となりました。



その他の事業

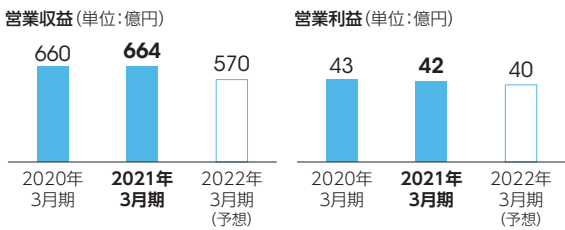


強み

当事業では、お客さまに提供する提案やサービスの品質を向上させるために、物流に付随する各機能を担うほか、トータルロジスティクスを支える付加価値を創出、提案、提供します。また、グループ内の業務効率向上に寄与する機能も担っています。

2021年3月期の概況

eコマースの荷物の増加により代引決済が増加しましたが、自動車販売が減少したことにより、増収減益となりました。また、社会環境が変化する中、限りあるリソースの最適配置、経営管理体制の強化・効率化、及び働き方の変革を図ることを目的に子会社3社の合併による事業会社再編を実施しました。



顧客現場に最適な物流を提案する「GOAL」

先進的ロジスティクスプロジェクトチーム「GOAL」
GO Advanced Logistics



物流を創り、経営課題にまで挑む。
進化する、SAGAWAのGOAL。

物流を起点に、 お客さまの経営課題を解決

▶ 隠れた課題を見つけ出し、 物流の最適解を提供します

SGホールディングスグループは、宅配便のみならずお客さまのあらゆる物流ニーズ・課題に対応するため、2014年に先進的ロジスティクスプロジェクトチーム「GOAL®」を始動いたしました。GOAL®は、お客さまとともに成長するパートナーとして、いま目の前にある課題の解決のみならず、潜在的な課題まで敏感にキャッチし、物流を全体最適化することをミッションとしています。



▶ 一貫したロジスティクスソリューションで お客さまの経営効率化を実現

企業の成長や市場環境などの変化に対し、お客さまのパートナーとして物流ソリューションを提供し、経営を物流の側面からサポートします。



▶ カバー領域は、業種を問わず上流から下流まで国内外すべての物流

約400名で構成されたGOAL®メンバーが、日本全国をカバーしております。各分野の専門家たちが、海外現地での調達から貿易、国内での保管や流通加工、さらにはラストワンマイルの配送まで、当社グループが持つさまざまな機能を融合し、ワンストップで課題解決に当たります。

CASE

アンテナ設置×全国輸送×TMS 5G通信インフラ工事への供給

GOAL®による ソリューション

従来は、コンクリート柱を工場から全国の建設現場に直送していました。GOAL®の提案は、全国の主要エリアに中継拠点を設け、工場から中継拠点への物流と、中継拠点から建設現場への物流を切り分けることで、45%の輸送距離短縮を目指すものです。離島への輸送には、船舶を利用するなど、当社グループの持つ様々なリソースを活用し、お客さまに最適なソリューションを提供いたしました。



グループ物流機能を集約したフラッグシップ

「Xフロンティア」全面稼働開始



次世代型大規模物流センター「Xフロンティア」は、2020年1月末に竣工し、2021年3月より本格稼働を開始した、当社グループが誇るフラッグシップセンターです。6階層からなるXフロンティアの下層階（1階から4階）には佐川急便の中継センターが、5階と6階には国際物流、大型・特殊輸送、ECプラットフォームといったグループ各社の物流機能が集結しており、GOAL®による新たな付加価値を創出しています。

中継センターは、5種類の最新自動仕分け機により1時間あたり約10万個の荷物を仕分ける高い処理能力を有しています。中継センターと5階の国際物流拠点やECプラットフォームは搬送機で直結されており、商品の入荷から仕分け、保管、及び流通加工から出荷までをXフロンティア内でシームレスに行うことが可能です。全国に荷物をお届けできる中継機能と当社グループが持つ物流機能が融合することにより、リードタイム短縮やコスト削減など、お客さまの物流ニーズに的確にお応えしてまいります。



「増加する宅配ニーズへの対応」

「Xフロンティア」の中継センターは2層構造となっています。2020年10月に1層目（1・2階）が、2021年1月に2層目（3・4階）が稼働を開始いたしました。当初は稼働開始から1年程度をかけて本稼働に移行する計画としておりましたが、コロナ禍による宅配便取扱個数の急増を受け、スケジュールの早期化に取り組みました。その結果、当初計画より半年程度本稼働を早めることができ、当初想定していた1日の仕分け個数は135%まで高めることができました。

引き続き拡大する宅配便のニーズに、高品質で安定的なサービスを提供してまいります。



1日の処理個数
想定値比

135%以上

コロナ禍における取り組み

感染症の世界的な流行を契機に、生活様式や流通構造の変化が加速しています。宅配便市場では、巣ごもり需要等を背景としたeコマース市場の急速な拡大を受け、取扱個数が大幅に増加しました。このような状況のもと、SGホールディングスグループでは、宅配便の安定的なサービス品質の維持と、お客さまが安心して荷物を受け取ることができる環境の整備のため、さまざまな感染症予防を徹底してまいりました。社会インフラを支えるエッセンシャルワーカーとしての使命を果せるよう、引き続き持続的な社会の実現に取り組みます。

また、当社グループは多くのワクチン輸送案件を受託しております。一日でも早くワクチン接種が進むよう、自治体やパートナーの皆さまとともに取り組んでまいります。

配達サービスの拡充

佐川急便では従来コンビニエンスストアでの荷物の受け取りや、宅配ロッカーの活用、配達日時を指定するサービスなど、お客さまに合わせた受け取り方をご提供してまいりました。2020年からは、お客さまが希望する場所にお届けする「指定場所配送サービス」、非対面での受け取りを行う「非対面配達」を開始しました。今後も皆さまが安心して荷物をお受け取りできるよう、サービスの拡充をしてまいります。

感染症予防

全従業員に対して、手洗い、うがい、マスクの着用、アルコール消毒、入社時の非接触型体温計による検温等の感染症予防対策を徹底しています。施設内では入館時やエレベーターの使用時にアルコール消毒の実施、対面カウンターや会議室へのアクリル板パネル等の設置を行っています。今後も生活に欠かせない宅配便ネットワークの維持に向けて、従業員の健康管理や衛生面の徹底を継続してまいります。



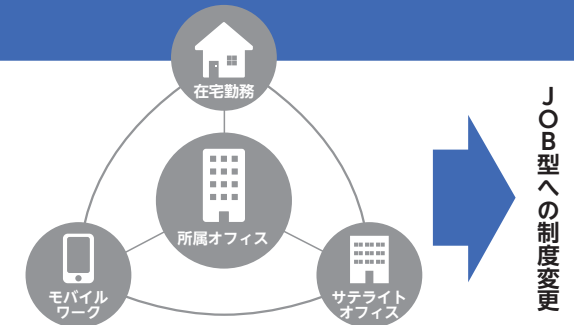
対面カウンターの透明仕切りパネル



入館時の検温の実施

テレワークの推進

感染症拡大を受け、従業員が安全に業務を遂行できるよう、在宅勤務制度を整備いたしました。併せて、在宅による生産性の低下を招かないための、ITインフラの整備とコミュニケーションツールの標準装備を行いました。ニューノーマルに適應した働き方を推進してまいります。



ワクチン輸送

SGホールディングスグループでは、地方自治体に入荷したワクチンや注射器等の接種施設への配送を受託しています。ワクチン輸送は、3時間以内での配送、数百カ所にわたる最適な配送ルート の算出、最適な車両の確保など、通常の運送業務以上に厳格な管理が求められています。2021年4月現在、200件を超える案件を受託しており、今後も増加することを見込んでおります。一部では、SGホールディングスが全国に展開している施設を活用し、接種場所への配送のみならず保管、仕分け作業等を含め、一括受託しております。今後さらに高まる自治体からのニーズに対応するため、業務の標準化とシステム化を推し進め、迅速に対応出来る体制を構築してまいります。

